

*So good!*

# 創宮

- 富士根交流センター完成
- 全国で、世界で活躍する富士宮の若者たち
- 富士宮防災ボランティアの会

*So good! vol.49*



2月1日、富士根交流センターが完成し、オープニングセレモニーが行われました。地域の皆さんが待ち望んでいた、新たな地域交流の拠点となる富士根交流センターの完成により、富士根地域の活性化が期待されます。

富士根地域の新たな交流を生む

# 富士根交流センターオープン



2月1日にオープンした富士根交流センターは、誰でも気軽に利用し、集い・学びあい・高めあえる、富士根地域の新たな交流拠点施設です。



▲最大200人まで利用できる集会室



▲センター内に会議室3室を整備



▲調理目的などでも利用できる多目的室



▲自由に利用できるフリースペース



▲121台が止められる広い駐車場

## 富士根交流センター

【所在地】  
富士宮市大岩1661-1

【開館時間】  
9:00～21:30

【休館日】  
毎週月曜日(月曜日が祝  
日の場合はその翌日)、12  
月29日から翌年1月3日

☎29-6121

## 富士根 交流センター



## 地域の皆さんが待ち望んだセンターオープン日



▲関係者らによるテープカット



▲大岩明倫保育園の園児が歌と踊りでお祝い



▲富士根南中学校吹奏楽部の見事な演奏



▲地元在住の画家・大月てる子さんが絵を寄贈



▲敷地内の公園でさっそく遊ぶ子どもたち



▲図書室で本を楽しむ親子

## 放課後児童クラブもオープン間近です



富士根交流センター西側には、「21世紀児童クラブ」が設置されます。4月からの利用開始をめざし、整備を行っています。

21世紀児童クラブオープニングセレモニー

**時** 3月20日(金・祝)

**所** 21世紀児童クラブ(富士根交流センター西側)

WBC世界ユーススーパーフライ級・WBAアジア・スーパーフライ級チャンピオン

あゆむ

# ボクシング世界チャンピオン 佐野遥渉 選手

令和7年10月にキルギス共和国で開催された「SAIKOU×LUSH vol.2」で、富士宮市出身のプロボクサー・佐野遥渉選手がWBAアジア・スーパーフライ級王座を獲得しました。試合では、激闘の末に無敗のアジア王者レイマート・タガカナオ選手(フィリピン)に、3対0で判定勝利を収めました。

佐野選手は令和6年6月にもWBC世界ユース王座決定戦でWBC世界ユーススーパーフライ級チャンピオンを獲得しており、郷土出身のプロボクサーの快進撃が続いています。



写真提供: LUSHボクシングGYM

▲鋭いパンチを放つ佐野選手(写真右)



写真提供: LUSHボクシングGYM

▲激闘の末、佐野選手(写真右)が勝利!



▲王座獲得を須藤市長に報告する佐野選手(写真左)

## 佐野遥渉選手からのメッセージ

初めての海外の試合ということもあり、移動や体重調整などが日本と異なるため、大変でした。しかし、多くの人が試合をサポートしてくださり、応援してくれる人の大切さを、改めて知りました。この試合でアジア王者に勝利したことで、自分の中ですごく自信になりました。富士宮は、僕がリラックスして過ごせる、大好きな場所です。チャンピオンベルトを市民の皆さんに見ていただきたいので、応援をよろしくお願いします!

## ●佐野遥渉選手プロフィール

平成15年3月生まれ。黒田小、第一中、飛龍高等学校卒業。元プロボクサーの父親の影響で小学2年生からボクシングを始め、令和3年10月にプロデビュー。令和4年8月に中日本スーパーフライ級新人王、令和4年12月にスーパーフライ級全日本新人王に輝く。

佐野遥渉選手公式Instagram  
AYUMU\_SANO.39



# ロボットアイデア甲子園全国大会で企業賞受賞

いくと

# 未来を創る 川原崎郁斗さん

工場で加工や組立搬送などの様々な作業を自動的に行う「産業用ロボット」は、生産性の向上や労働人口の減少を解決するための手段として、近年、注目を集めています。様々な分野で活用が期待されている産業用ロボットの新たな使用方法などを、全国の高校生がアイデアを出し合って競う「ロボットアイデア甲子園」に、市内から吉原工業高等学校に通う川原崎郁斗さんが出場しました。



▲川原崎さんの発表の様子

川原崎さんは、ミツバチを大量に捕食して養蜂農家に甚大な被害を与えるツマアカスズメバチをロボットで自動的に捕獲するアイデアを提案。ツマアカスズメバチは凶暴な性格で、人が刺される被害も発生している厄介者です。川原崎さんは、ツマアカスズメバチが好む周波数帯の音を出しておびき寄せる駆除方法、養蜂農家が導入しやすいように、数年の運用で導入費用が回収できる機器を選定するなど、斬新かつ実用的なアイデアが評価され、協賛企業賞であるファナック賞を受賞しました。



▲全国大会出場を市長に報告する川原崎さん

(写真左から2人目)



▲斬新なアイデアが披露された全国大会

## ●川原崎郁斗さんプロフィール

平成19年12月生まれ。富士根南中学校卒業後、県立吉原工業高等学校ロボット工学科に在学。高校では実際に稼働中の機器やロボットなどの操作のほか、プログラミングなどの専門的な知識を習得中。趣味はカラオケで、Mrs.Green Appleや米津玄師などがお気に入り。

# 全国ジュニア自転車競技大会の中学生クラスで優勝

いずき

# 渡邊稜己選手

中学生ながらプロサイクリングチームレバンテフジ静岡の下部育成チームLEVANTE HOPEに所属する選手を紹介します。



▲渡邊稜己選手

## 印象に残っていること・将来の目標

全国大会を優勝した時は、かつてないほどの嬉しさがありました。前に誰も居なくて自分が最初にゴールできるあの景色は、鮮明に脳に焼き付いています。

直近の目標は高校に合格し、チームのレギュラーメンバーに入ることです。また、プロとして活躍し日本のロードレースのトップカテゴリーであるJプロツアーで表彰台にあがることも目標の1つです。

## 市民の皆さんへメッセージ

こんにちは。LEVANTE HOPE所属の渡邊稜己です。10月26日に三重県で開催された、全国ジュニア自転車競技大会の中学生クラスで優勝し、チャンピオンジャージを持って帰る事が出来ました。これからも自転車競技が有名になるように、そして富士宮市がさらに盛り上がるように、全力を尽くしていきます！応援をよろしくお願いいたします！



▲須藤市長を表敬訪問

## 自転車競技を始めたきっかけ

きっかけは小学6年生の時に、令和5年の3月に富士市で開催された富士山サイクルロードレースを観戦して自転車競技に憧れをもったことです。ずっと野球をやっていましたが、自転車レースを初めて見た時、その圧倒的なスピードの迫りに魅せられて、レースを見終わった頃には、「自分もやってみたい」という気持ちを強く持っていました。

## 自転車競技の面白さ・魅力

自転車競技の面白さは、シンプルなのに奥深いところだと思います。ペダルを踏んで速く走るというシンプルなスポーツですが、体力勝負だけでなく戦略性がとても重要です。集団走行では、「風をどう避けるか」、「いつ仕掛けるか」「どの位置取りをするか」などをレース中に考えて常に判断していくのが自転車競技です。



▲大会で力走する渡邊選手(写真左)

## ●渡邊稜己選手プロフィール

平成23年生まれ。白糸小学校から西富士中学校に進学。

小学校6年生の時に自転車に興味を持ち、本格的なレース参戦は中学2年生から。今季はこれまでに24レースに出場し、7勝を挙げ、表彰台を15回獲得。自転車の楽しみをもっと多くの人に知ってもらおうと、学校の探求学習で駅前から浅間大社を経由し、朝霧高原まで周遊するツアーを計画。市やスルガ銀行の協力を得て、令和7年5月と10月に実施し、自らも案内役を務めるなど、自転車の普及活動に取り組む。

# 若者の活躍を応援する富士宮市

富士宮市出身の若者たちがめざましい活躍を遂げています。  
市では、若者たちの学びや体験を応援し、未来の富士宮市を担う人材の育成に努めています。

## 若者の可能性を大いに引き伸ばすまちに！富士宮市のグローバルな人材育成事業

海外でのホームステイや現地学校での英語研修で異文化への理解を深める「世界にはばたく子どもたち育成事業」や経済発展が著しい海外都市に高校生を派遣して国際的な視野を養う「未来を担う高校生人材育成事業」を行っています。姉妹都市・サンタモニカ市、友好交流都市・栄州市や台南市に学生を派遣するなど、その国の歴史や文化に触れ、未来の富士宮市を支えるグローバルな人材の育成を行っています。



▲現地での交流で英語力を高めます

## 若者の挑戦を支援し、未来を拓く力を若者に！エキマエ Challenge House CHILL IN

中高生だけではなく、大学生や若者が様々なまちづくり事業に挑戦できる場所として、中心市街地に「エキマエチャレンジハウス チリン」を整備しました。令和6年8月のオープンから1年が経過し、市内の若者たちが地域おこし協力隊や市外出身の大学生と一緒に地域活性化に取り組んでおり、学生や若者たちの挑戦と成長の場所として、確かな存在感を示しています。



▲若者たちが集う場所、チリン



▲若者の感性が光る絵の展覧会



▲高校生の活動事例発表



▲若者が本音を語り合う集い



▲高校生が市の魅力を新聞に



▲AIを活用したプログラミング大会



▲地域おこし協力隊によるイベント

# 第13回赤十字救急法競技会 救命応急手当の部優勝 富士宮防災ボランティアの会

富士宮防災ボランティアの会は、令和3年4月に設立され、「富士宮市民に対し、防災・減災等に基づく諸活動を実践することで安全安心な社会をつくること」を目的に、14名の会員が市内で防災講座などを開催しています。

令和7年10月に静岡市で開催された第13回赤十字救急法競技会\*で、救命応急手当の部で優勝、一般の部で総合3位という素晴らしい成績を収めました。

※赤十字救急法競技会…日常生活における安全意識を高め、事故や災害時にお互いが助け合いながら活動する、共助の知識と技術を向上させることを目的に開催されている。



▲部門別の表彰状を手にする皆さん



▲競技会のようす。  
傷病者を救急隊に引き継ぐまでの観察と手当の正確性を競います。



▲救命応急手当を実演

富士宮防災ボランティアの会の会員のうち8名の方は、令和7年6月2日に市役所で行われた市防災強化月間セレモニーで防災指導員に任命され、さらに活躍の幅を広げています。今後の活動を通じて、地域における防災力の向上がますます期待され、富士宮市の安全・安心に欠かせない存在として、富士宮防災ボランティアの会の存在感が増しています。



▲任命式(左)と防災展での啓発活動(右)



▲成績を市長に報告